



実話に基づく作品の効用と課題

USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program

バック 淳子

目 次

1. はじめに	2
2. 実話に基づく映画はドラマに集中	2
3. マーケティングからみた魅力	4
4. ドキュメンタリーの可能性	5
5. リアリティではないリアリティ番組	6
6. まとめ	7

1. はじめに

“Based on a true story”（この物語は、実話に基づいています）という断り書きを映画の冒頭で目にすることも多い昨今、実話に基づくからこそ登場人物に共感を覚え、勇気や希望を与えられた経験を持つ観客も少なくないだろう。インディペンデント映画プロデューサーや投資会社などに米国内の映画産業のデータを提供する、映画に関するデータ収集サイト The Numbers によると、実話に基づく映画の本数は 1929 年から 2016 年公開予定にかけて計 2,023 本。そのうち、ドキュメンタリーが 1,403 本と最多だが、ドラマも 447 本に上り、最近ではアカデミー賞にノミネートされた『フォックスキャッチャー』をはじめ、『Black or White』『McFarland USA』など良作が目立つ。（※1）好調に映る実話に基づく作品だが、映画のみならず、テレビ、ドキュメンタリー業界で活躍する、あるいは経験を持つ数人に取材し、その効用と課題を探った。

2. 実話に基づく映画はドラマに集中

前出の The Numbers によると、米国内での実話に基づく映画の公開本数は、1920 年代から 1970 年代にかけてはほぼ一桁で推移していたが、1980 年代の 38 本と 1990 年代の 148 本を境に、2000 年代には 882 本、続く 2010 年代には 922 本と激増しており、年別に見ても、2011 年以降、年 200 本前後で堅調に推移している。

興行収入も、『クレオパトラ』（1963 年）と『史上最大の作戦』（1962 年）を除いて 4 億ドルを超える作品こそないものの、最近の作品では、米軍史上最強とうたわれた狙撃手 Chris Kyle のベストセラー自伝を映画化し、337,208,992 ドルの興行収入を記録した『アメリカン・スナイパー』（2014 年）が実話に基づく作品として歴代 3 位にランクインした。これは、1995 年から 2015 年にかけての全体興行収入でも 4 位となる数字で、実話に基づくストーリーが観客をひきつけることの証左と言える。

また、その間のジャンル別の公開本数はドラマが 3,849 本と、続くコメディの 2,086 本とドキュメンタリーの 1,533 本を大きく引き離しており（※2）、さらに以下の表の通り、ドラマにおける興行収入上位 25 位中、実話に基づく作品は、『アポロ 13』（1995 年、323,111,972 ドル）、『ビューティフル・マインド』（2001 年、240,741,999 ドル）、『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』（2002 年、226,700,817 ドル）など 7 作品が占めている。（※3）

Top-Grossing Movies 1995-2015, Adjusted for Ticket Price Inflation

Rank	Movie	Release Date	Distributor	MPAA Rating	Total Gross	Inflation-Adjusted Gross
1	パッション	Feb 25, 2004	Newmarket Films	R	\$370,782,944	\$487,776,860
2	プライベート・ライアン	Jul 24, 1998	DreamWorks SKG	R	\$216,335,085	\$373,037,854
3	キャスト・アウェイ	Dec 22, 2000	20th Century Fox	PG-13	\$233,632,144	\$345,168,243

Rank	Movie	Release Date	Distributor	MPAA Rating	Total Gross	Inflation-Adjusted Gross
4	アメリカン・スナイパー	Dec 25, 2014	Warner Bros.	R	\$337,208,992	\$337,208,992
5	アポロ 13	Jun 30, 1995	Universal	PG	\$172,070,496	\$323,111,972
6	ニュームーン/トワイライト・サーガ	Nov 20, 2009	Summit Entertainment	PG-13	\$296,623,648	\$322,655,220
7	エクリプス/トワイライト・サーガ	Jun 30, 2010	Summit Entertainment	PG-13	\$300,531,751	\$311,197,008
8	トワイライト・サーガ/ブレイキング・ドーン Part2	Nov 16, 2012	Lionsgate	PG-13	\$292,324,737	\$299,968,315
9	トワイライト・サーガ/ブレイキング・ドーン Part1	Nov 18, 2011	Summit Entertainment	PG-13	\$281,287,136	\$289,777,882
10	パーフェクト ストーム	Jun 30, 2000	Warner Bros.	PG-13	\$182,618,434	\$276,807,533
11	しあわせの隠れ場所	Nov 20, 2009	Warner Bros.	PG-13	\$255,959,475	\$276,268,419
12	グッド・ウィル・ハンティング/旅立ち	Dec 5, 1997	Miramax	R	\$138,433,435	\$241,272,886
13	ビューティフル・マインド	Dec 21, 2001	Universal	PG-13	\$170,708,996	\$240,741,999
14	キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン	Dec 25, 2002	DreamWorks SKG	PG-13	\$164,606,800	\$226,700,817
15	トワイライト～初恋～	Nov 21, 2008	Summit Entertainment	PG-13	\$192,769,856	\$218,580,172
16	トゥルーマン・ショー	Jun 5, 1998	Paramount Pictures	PG	\$125,618,201	\$218,563,530
17	グリーンマイル	Dec 10, 1999	Warner Bros.	R	\$136,801,376	\$214,452,328
18	アメリカン・ビューティー	Sep 15, 1999	DreamWorks SKG	R	\$130,058,048	\$203,707,071
19	評決のとき	Jul 24, 1996	Warner Bros.	R	\$108,766,007	\$200,934,246
20	幸せのちから	Dec 15, 2006	Sony Pictures	PG-13	\$162,586,036	\$199,323,596
21	ユー・ガット・メール	Dec 18, 1998	Warner Bros.	PG	\$115,821,495	\$196,550,600
22	フェノミナン	Jul 5, 1996	Walt Disney	PG	\$104,636,382	\$193,393,075
23	エリン・プロコピッチ	Mar 17, 2000	Universal	R	\$125,548,688	\$190,302,919
24	リンカーン	Nov 9, 2012	Walt Disney	PG-13	\$182,207,973	\$186,196,849
25	コンタクト	Jul 11, 1997	Warner Bros.	PG	\$100,920,329	\$179,364,744

Box Office Mojoによると、1980年以降、ドキュメンタリーを除くジャンル別では、実際の犯罪に基づく作品が、『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』（2002年、226,700,817ドル）を筆頭に52本公開された。自伝などを基にしたbiopicは40本で、リアリティ番組にインスパイアされた作品は23本となっている。（※4）

(※1) "Based on Real Life Events Movies." The Numbers. Nash Information Services, LLC. Web. <<http://www.the-numbers.com/movies/source/Based-on-Real-Life-Events>>.

(※2) "Market Share for Each Genre 1995-2015." The Numbers. Nash Information Services, LLC. Web. <<http://www.the-numbers.com/market/genres>>.

(※3) "Box Office History for Drama Movies." The Numbers. Nash Information Services, LLC. Web. <<http://www.the-numbers.com/market/genre/Drama>>.

(※4) "Genre Index." Box Office Mojo. IMDb.com, Inc. Web. <<http://www.boxofficemojo.com/genres/>>.

3. マーケティングからみた魅力

2000年まで12年間、Universal Pictures Legal and Business Affairs で Executive Vice President を務め、現在は Mattel で VP Licensing Acquisitions, Content, Biz Affairs を務める Jeffrey Korchek 氏は、実話に基づくことが、**greenlight** と呼ばれる映画の成立を決めるプロセスへ与える影響について、「マーケティングの観点からは特に魅力的だ」と話す。だが、実話に基づく作品が好調であることについて、「それ自体が新しいジャンルとなるわけではない」とみている。「映画にはサイクルがあり、スタジオは様々な要素を吟味しながら公開の18カ月前に作品を決める。かつてウェスタン映画がもてはやされた時期もあったが、いまはそうではないように、あくまで決め手となるのはストーリーであることに変わりはない」と話した。

Universal 時代、思い出深い実話に基づく作品の一つに、元美人コンテスト優勝者の Erin Brockovich が、企業の巨悪を前に、史上最大級の集団訴訟に勝利するまでの軌跡を描く『エリン・ブロコビッチ』がある。交渉過程では、登場人物らがスタジオを訴える権利を放棄することと、スタジオがストーリーを脚色することを認めさせることの2点が最も重要だったといい、円滑に交渉を進め、作品を成功に導くために、プロデューサーが相手との信頼関係を構築することの大切さを強調した。そのためにも、Brockovich の私生活の一部を描かないことが条件となったが、Brockovich の Period of Life を買う契約を結ぶうえで留意したのは、「プロデューサー側が、ストーリーの描き方をしっかりとコントロールすることだった」と振り返った。

同様に、実話に基づく作品が、「ストーリーに真実味加わるため、マーケティングの観点からも非常に重要」と強調するのは、DreamWorks Studios Story Department で Senior Vice President を務め、長年、脚本開発に携わってきた Andrea McCall 氏だ。「よく知られた話の場合、また、ヒーロー像が際立つ場合は特に効果的」という同氏は、アンケートに対し、「実話に基づく作品を通じて、観客は、描かれているのが同じ世の中に実在する誰かの体験であることに、より共感を深め、感動と畏怖を覚えるのではないか」としている。前述の『アメリカン・スナイパー』や『Wild』『リンカーン』『博士と彼女のセオリー』『イミテーション・ゲーム / エニグマと天才数学者の秘密』『シルクウッド』『潜水服は蝶の夢を見る』『エリザベス』などはその好例で、作品に共通するものが、登場人物が目標に向かって大きな困難を乗り越えることにある点は注目に値する。このため、実話に基づく作品はサバイバル・ストーリーのジャンルに当てはまりやすいが、フィクションが多いのもサバイバル・ストーリーの特徴という。

このように、展開がしやすく、どのスタジオにとっても魅力溢れる実話に基づく作品だが、国内外での興行収入にはばらつきがある。McCall氏は、「興行収入面については、取り上げる題材やインディペンデント、スタジオの違い、マーケティングなどの各要素が加わるため、単純比較は難しい」としながらも、「社内の記録では、実話に基づく作品の公開本数は近年、倍増した可能性すらある」との見方を示した。また、そのきっかけは、プロデューサーが題材を持ち込む場合や、life rights や本などのオプションを確保した場合が大半だという。

一方、greenlight の過程はスタジオ間で異なり、DreamWorks Studios の場合、「Greenlight は、予算のほか、監督やキャスト、クルー編成などを終えた最終段階にあり、準備が整って撮影をはじめてもいいというオフィシャルサイン」だという。よって、実話に基づいた題材かどうかを考慮するのは、「それよりずっと以前の packaging 段階 (パッケージング段階) になる」という。

アカデミー賞作品賞、監督賞など7部門を制覇した『シンドラーのリスト』(1993年)も、「当初は、より小規模な作品と捉えられており、決められた予算の中で完成させるのは困難だった」という。その大きな障害の一つが、「歴史上の事実の正確性を保ちながら、スリラーのようなトーンを持った感動を生む脚本を作り上げることにあった」という。結果的に『シンドラーのリスト』は大成功を収めることとなり、「ホロコースト生存者への関心を高め、(その経験を語り継ぐ) Shoah Foundation 設立へとつながった」と同氏は指摘した。(※5)

ただ、実力派俳優の Benedict Cumberbatch を起用し、WikiLeaks 創設者の Julian Assange を描いた同スタジオのスリラー『フィフス・エステート：世界から狙われた男』(2013年)は2,800万ドルの予算に対して、興行収入は8,554,008ドルにとどまり、失敗作と評された。(※6)これについて、映画情報サイト MovieFone は、「公開時期など複数の要因があるものの、興味深いテーマながら、人々の関心が米国経済の行方などにより向いていたためではないか」と分析している。つまり、実話を基にした作品は、題材の社会的意義を高めると同時に、観客が現実を忘れるためのエンタテインメント性を求める場合、かえって観客を遠ざけてしまう側面もあるようだ。

(※5) 実話に基づく作品に関するアンケート回答結果より

(※6) "The Fifth Estate." Box Office Mojo. IMDb.com, Inc. Web. <<http://www.boxofficemojo.com/movies/?id=fifthestate.htm>>.

4. ドキュメンタリーの可能性

実話に基づく作品の主流を占めるドキュメンタリーについて、ドキュメンタリーとフィクションの両方を手がける Mitchell Block 准教授は、「問題は、マーケット規模よりも、テーマであり、それは近年、平凡になりつつある」と指摘する。エグゼクティブ・プロデューサーを務めたドキュメンタリー作品『Big Mama』(2000年)でアカデミー賞を受賞した経験も持つが、「ビジネスが主流のハリウッドでは受賞とビジネスの関連性は薄い。それでも、『シンドラーのリスト』や『ファインディング・ニモ』など、両方の要素を保った作品もある」と話す。

その中で物語映画が生き残る術としては、「オリジナル作品は難しいが、原作のアダプテーシ

ョンにはチャンスがある。日本を題材とした作品を海外で展開するためにも同様のことが言える」とした。国際共同製作は商品化され、アート性が失われやすくなることも、アダプテーションを勧める理由に挙げた。

同氏はアイデアを探すためにも「以前は新聞を5紙取っていた」そうであり、トレンドを反映する Facebook も活用している様子である。そして、「何より人との交流を積極的に持つことがカギとなる」と強調した。

Block 准教授は現在、サンディエゴとフロリダ州にある Seaworld を舞台に、約 30 人のトレーナーとシャチとの関係性に注目しており、絶滅の危機に瀕しつつあるシャチを、逆にシーワールドがいかにして保護しているかを追ったドキュメンタリー『The Killerwhale』を制作中だ。フロリダのシーワールドで女性調教師がショーの最中にシャチに殺害されるという衝撃的な事件を題材にした『Blackfish』をめぐっては、シーワールドが検証サイトで同作品について「客観的なドキュメンタリーではなくプロパガンダだ」と主張し、授業でもシーワールドの代理人を務めるゲスト・スピーカーの Lawrence Iser 氏が、「あのドキュメンタリーは大半が嘘だ」と真っ向から批判するなど論争を巻き起こした。(※7) シャチを自然界から連れてきて、狭い水槽の中で飼育することの状況改善を訴える『Blackfish』と、今回の『The Killerwhale』はいわば真逆のテーマだが、シーワールド内で撮影をするのが認められたのははじめてだといい、議論に一石を投じることになるのか注目される。時に題材に斬り込んでいく必要があるドキュメンタリーにおけるライツ確保については、「対象が倫理的に守られることを条件としている」と語った。

日本で似た題材を扱った作品としては、和歌山県太地町のイルカ追い込み漁をめぐる『ザ・コーヴ』が記憶に新しいが、同准教授は『ザ・コーヴ』について、「漁師にとって不公平な描き方をしている」との見解を示した。その根拠については、「太地町におけるイルカ漁の歴史が 300 年におよぶ」としたうえで、「漁師にとって追い込み漁は生活スタイルであり、外交に配慮し、漁師への補償を提案するなど間に立つべきは日本政府だ」と指摘した。

(※7) “Blackfish: The Truth About the Movie.” SeaWorld. SeaWorld Parks & Entertainment, Inc. Web. <<http://seaworld.com/en/truth/truth-about-blackfish/>>.

5. リアリティではないリアリティ番組

また、リアリティ番組を含むテレビにおける実話に基づく作品について、NBC で 13 年から放送中の人気テレビ番組『THE BLACKLIST / ブラックリスト』の Showrunner を務める Jon Eisendrath 氏は、Columbia University Graduate School of Journalism を卒業し、報道記者としてワシントン DC で政治ニュースなどを担当した経験が、視聴率低下を食い止めようとする大都市のニュースルームの奮闘を描いたシリーズ『WIOU』(1990 年、CBS) の制作に活かしたという。ただ、「実話に基づくテレビ番組は、時に当たることもあれば、外れることもある」といい、ライターとしては、実話であるかどうかを特に意識していない様子が伺えた。

2004 年に『アメージング・レース』でエミー賞を受賞したプロデューサー John Kroll 氏による

と、「特定の形式を保ったフォーマットテレビや、ドキュソープは、ケーブルテレビの帯番組となる一方で、ネットワークでは新規視聴者の獲得が難しいために展開しづらい実態がある」という。ネットワークは多くの視聴者をひきつけるが、より競争が激しく、ケーブルテレビに比べて暴力や性描写の制約が大きいのが特徴だ。そのため実話に十分に斬り込めない側面もあるとみられる。

リアリティ番組では、筋書きのないストーリーはほとんどないものの、視聴者の多くは、画面に映し出される内容を信じる傾向にあり、面白いテーマを持った人々や、有名人らの非日常的な日常を追い、特に出来事がない場合は、何かイベントを加えるなどの提案をして、テンポある展開を保っているという。また、番組によっては、会話をまったく文脈にそぐわない形で切り取ることも多々あるため、一概に現実とは言えない実態が浮かぶ。

6. まとめ

以上、見てきたように、映画やテレビ、ドキュメンタリーにはそれぞれ実話を基にした場合の作品の効用と課題とがあり、商業的に有効な反面、情報をどう受け取るか、観客の混乱を招きかねない側面もあるようだ。

業界誌 *Variety* によると、Washington University in St. Louis の Jeffrey M. Zack 教授 (心理学) は、「観客は作品によってつくられた事実の善悪を判断しない傾向があり、例えそれが、既に知っている歴史上の事実であっても、作品中で目にした情報によって上書きされてしまうのだ」と語った。それだけ映画の持つインパクトが大きいということだが、記事はフィルムメイカーはその影響力を肝に銘じるべきだと指摘している。60年代、70年代はベトナム戦争を踏まえて、Paul Newman 主演の『WUSA』など政治的なメッセージの込められた映画が並んだが、その内容が事実と乖離していることも少なくなかったという。

さらに、Zack 教授の実施した調査によると、歴史を基にしたエッセーを読み、その反対の内容や不正確な事実の含まれた映画を見せられた学生たちは、映画の内容の 30%を事実として受け入れたという。この結果について、記事は、「作られた事実の方がエンタテインングだからではないか」と指摘している。(※8)

USC に入学した際、最初にインプットされたフレーズの 하나가、“Reality ends here (ここから先は夢の世界)”である。映画やテレビには登場人物に自身を重ね合わせる効用もあるため、現実の持つ真実味や共感を呼ぶ力を認識しつつ、いかに夢の世界へと観客を誘うかの力学を身につけることが、責任ある作品づくりの鍵となりそうだ。

(※8) Bart, Peter. “Movies Often Play Games With History – And Filmgoers Embrace Them.” *Variety*. Variety Media, L LC, 26 Feb. 2015. Web. <<http://variety.com/2015/voices/opinion/films-based-on-real-events-sometime-play-with-facts-but-audiences-dont-seem-to-mind-1201441633/>>.